

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立内川小中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-1341
石川県金沢市別所町 18

E-mail uchikawa-e@kanazawa-ed.jp
Website http://cms.kanazawa-city.ed.jp/uchikawa-j/

児童生徒数 男子 20名 女子 23名 合計 43名
児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、『ふるさとに誇りをもつ、心豊かな子どもの育成』を学校教育目標にしている。副題として「幅広い人々との交流や体験を通して、たくましい社会性を育む」としている。学校目標と副題から、ESD はふるさと内川地区の良さや課題を知り、課題解決に向けての学習をしていくこと捉えた。これらの交流を通して「自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力」を育成することを目標とした。

児童につけたい力として「自分の考えを表現・発信する力」「コミュニケーション能力」「課題を発見・追及する力」「ふるさととのよさに対する気づき」と 4 観点とした。

教育課程上では、生活科と総合的な学習の時間に位置づけ、取り組んだ。具体的な取り組みとして①内川の校区を知る学習②内川の自然に係わる学習③内川の環境に係わる学習④内川の地域・人に係わる学習の 4 つの実践を行った。

①内川の校区を知る学習

小学校 2 年生

校区にある内川公民館、万陽苑(老人ホーム)など公共施設を訪問し、担当の方から話を聞き、新しい事を学ぶ機会となった。また、施設を利用されていた高齢者の方と話をし交流することができた。

小学校3年生

社会科で校区全域を探検し、自分たちの知らない内川校区の事をくわしく知ることができた。内川ダムや、名産のたけのこ、カタクリなど、内川校区にしかない貴重な場所などを見学し、校区に対する愛着を深めた。

②内川の自然に係わる学習

小学校3年生

四季折々の草花を観察し、それらのことを詳しく調べ、地域の住民の方々から教えて頂くことができた。調べたことを他の学年に紹介することができた。

小学校4年生

地域の「竹の子まつり」、竹の種類や、竹の生育について調べ、全校集会で発表することができた。

小学校5年生

内川に自生するカタクリについて調べ、それらの成分や効能、希少価値などを調べ、全校に発表することができた。

③内川の環境に係わる学習

小学校5年生

無農薬米を栽培する地域の方から話を聞き、無農薬米栽培での苦労や努力を知ることができた。調べたことをプレゼンテーションソフトで、地域の方や全校に向けて発信することができた。

④内川の地域・人に係わる学習

小学校6年生

ミョウガ栽培されている地域の方から話を聞き、土壌作りや害獣対策について学ぶことができた。学んだことは文化祭で地域住民、保護者、全校生徒に発信することができた。



①内川の校区を知る学習



②内川の自然に係わる学習



③内川の環境に係わる学習



④内川の地域・人に係わる学習

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(ふるさとに対する気づき)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

参考のホームページ ・万陽苑・山下さんお米作り・内川公民館 参考図書 ・竹の本 (料理、竹細工)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程の位置づけ

1・2年生は生活科の学習、小学校3年生以上は社会科と総合的な学習の時間の中で教育課程に位置づけている。

指導内容及び指導の工夫改善

- ①学習に対する児童の意識
- ②学習に取り組む児童の意欲や態度
- ③学習過程での表現活動
- ④学習の成果として制作する作品やレポート

上記4点の指導ができているかどうか、常に判断し指導し、工夫改善に活かしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・職員会議等で毎年の方針について全職員で確認する。
- ・児童が取り組んだ成果物を展示し、全校に向けて発信する場を設定することで、児童同士、職員同士が互いの学習を深く学び合うことができ、共通理解の場（来年度の見通しを持つ場）となっている。
- ・文化祭等に発信する機会をつくることで、児童に相手意識を持たせたり、見通しを持たせたりすることができた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケート等（児童アンケート、職員アンケート）で評価項目に位置づけ、評価が低い項目については、担当者が集まって対応を協議する体制を整えている。

<成果>内川地区の自然を大切にしたい気持ちが高まってきた。また、地域住民と交流することで、学校の教育活動を知って頂く機会となっている。

<課題>学習した資料等をデータ化し、継続していくシステムの作成。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

文化祭や、全校集会等で地域から学んだことを地域に発信することで、内川地区の良さを地域の方々に還元することができた。また、学校ホームページや学校便り等で発信することで、内川の魅力を伝えることができた。(ホームページを見て、校区外の方が小規模特認校制度を知り、本校に通学する児童が増えてきた。)

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

内川公民館主催の「内川たけの子まつり」の際に緑の少年団(内川小3年以上参加)として募金活動に参加している。その際に多くの方々から声をかけて頂ける。また、内川公民館の方々に、地域住民の名人さんを小学生に紹介していただいたり、名人さんとの連絡調整をお願いしたり協力して頂いている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

内川小を入れた金沢市5校(すべてユネスコスクール加盟校)小規模校との交流で、運動を通して共に汗を流す活動や、社会科見学を合同で行うなど共に学ぶ学習を行っている。交流の中で、それぞれの学校での学びを紹介しあうことができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動の中で、本物に触れたり、地域の名人さんに話を聞いたりすることで、子ども達の学習意欲がとても高い。また、自分で課題を見つけ、探究する姿がすべての学年で見られた。

これらの学習を通して、学校目標である『ふるさとに誇りをもつ、心豊かな子ども』に迫ることができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

①内川の校区を知る学習

小学校 2 年生

校区を探検して、地域の良さを知り 1 年生に紹介する。

②内川の自然に係わる学習

小学校 3 年生

校区全域を探検し、内川の特徴を知る。また、しいたけ栽培を通して自然の大切さを知り、2 年生に紹介する。

小学校 4 年生

内川地区の竹の種類や、竹の生育、竹の歴史を調べ発信する。

③内川の環境に係わる学習

小学校 5 年生

内川地区の無農薬米を栽培する農家の方から話を聞き、害獣駆除などについて調べ、対策などについて考え地域の方に発信する。

④内川の地域・人に係わる学習

小学校 6 年生

地域の特産物であるミョウガ作りの農家の方に話を聞き、土壌作りの大切さや環境について考え、文化祭で発信する。